気をつけましょう

乳　牛

▼ケトージス等の事故予防▼

ケトージスの本質的な原因は不明な点が多いですが、冬期間の粗飼料不足、飼料給与のアンバランス、酪酸醗酵した不良サイレージ給与など飼料の給与法が悪く、しかも産前産後のように急にからだに負担がかかった場合、春の分娩後多く発生しやすくなります。

妊娠中は青刈飼料給与時期より無機物を多く必要としますから、ミネラル類の入っている固形塩などをなめさせるとともにカルシウムは夏季の１％増し位で給与します。又換気を考えた防寒施設をし、晴天の日には運動と日光浴をかねて運動場へ出し、又牛体の手入を行って体表血管の血液循環をよくしてケトージスなどの事故を未然に防ぎましょう。

▼営農設計と経営の反省▼

39 年中の牛乳生産収支はいかがでしたか。今年の酪農経営を収支に基づいて反省し、40 年の営農設計により自立経営酪農を確立しましょう。

鶏

『防寒についての注意』

鶏が産卵能力を十分発揮させるためには、環境による影響力が非常に大きく作用するため、飼養管理に十分注意をはらわねばなりません。鶏の最適温度は摂氏 12 度から 23 度ぐらいの間で、この温度巾のうちは良い産卵が期待できますが、これからはずれてくると産卵も徐々に少なくなってきます。まあ１日の比較差が大きくなると生活機能の旺盛な鶏では非常にこたえます。また環境温度が低下すると酸素の消費量が増加しますので、寒さと共に、換気にも十分注意をはらうことが大切です。このようなことから、冬期は種々の防風、防寒の処置を計画的に行なうことが必要であって、寒いからといって昼間も鶏舎の四方を囲っておくと日中は舎内の温度が摂氏 20 度くらいまで上昇し、夜間になると０度近くに下るようなことがあります。比較差は 10 度以内とするのがよいので、風がなく天気のよい日には日中は開放的にして、夜間はふさぎ防寒をするよう適時調節をすることが大切です。

和牛

『食道梗塞起こさせないように』

晩秋から冬にかけては芋やカブ、大根などを給与しかけますので、ボール大以上の丸い芋などをそのままで与えておくと、食堂につまることがあります。

もし気がつかないで放っておくと、鼓張症をおこしたり、窒息して死ぬことがあります。

食堂に物がつまると、牛は頸を伸ばし、元気も食欲もなくなります。

見つけたならば、頸の下部、食堂に相当するところを両側から触ってみます。塞がっているものが比較的柔らかいものなら、これを揉み上げて口の方へ戻せばよろしいし、それができなければ獣医師に早く見てもらうことです。